別紙様式１（高）

令和８年度　学校経営計画表（定時制・昼間制）

１　学校の現況

学校番号	22	学校名	県立水戸南高等学校	課程	定時制、通信制	学校長名	西野　守郎
教頭名	渡邊　利視 （定時制・昼間制）	鴨志田　剛 （定時制・夜間制）	根本　純一 （通信制）	事務室長名	廣瀬　克彦		

教職員数	教諭	63	養護教諭	2	常勤講師	4	非常勤講師	20	実習教諭,実習講師,実習助手	1	事務職員	6	技術職員等	11	計	107

生徒数	課程・学科		１年		２年		３年		４年		合計		合計
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	ｸﾗｽ
	定時制（昼）普通科		26	24	29	37	23	30	0	0	78	91	8
	定時制（夜）普通科		4	3	6	5	7	2	0	0	17	10	4
	通信制	普通科	69	91	55	104	64	93	74	84	262	372	24
		ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ科	15	26	10	13	10	29			35	68	3

２　目指す学校像

「生徒一人一人のニーズ・スタイルを尊重し、学校本来の大切さを日々感じる学校」

単位制で作る自分の時間割、生活スタイルで選べる３つの課程、手厚い指導体制を生かしたセルフプロデュースの学習を実現する。
ＪＲ水戸駅から徒歩圏内の利便性と、緑に囲まれた閑静な環境を生かして、持続可能な心静かな学びを実現する。

３　三つの方針（スクール・ポリシー）

「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	【水戸南高校の学びの場で、「これから」の自分に向き合う資質・能力を身に付けて、困難に負けない自分を創る】 ○いつでも「これから」（未来）を意識し、「得たこと」よりも「やり続けること」に価値を感じながら、学び続けていくことの楽しさを資質として習得する。 ○世の中の成り立ちを知り、面白いと感じる分野と出会い、自分にプラスをもたらす人と出会い、自分の秀でた部分に出会い、高校時代に第１歩を踏み出す。 ○困難を乗り越えてきた経験も自信に変え、何度でも立ち上がれる人になる。「今までどおり」が通用しない未来において立ち上がる力を磨く。この場所で過ごす「高校生活の日々」の大切さが将来の自分の糧となる。 ○「自分にはできない」とあきらめず、「今はまだ、できないだけ」ととらえ、一人一人が目標を実現可能と信じ、他人に合わせることなく、自分の「学びに対する好奇心」を育む。 ○学びの中で「自分にはどのような力があるか」と自己をみつめ、「将来何になることができるか」、「なりたい自分になる」など、自分の強みと本来の個性を表現できる資質を養う。 ○個性と多様性を大切にする自由さの中で、自立と自律の能力を磨く。自分の目標と今の自分がどう違っているかを見極めて、自分で修正できる力を身に付ける。
「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	【単位制の特色を最大に活かした水戸南高校の学びで、自分の意思と選択で学べる時間割を提供し、一人一人のニーズに応える】 ○「なりたい自分になるための学びの場づくり」のため、単位制の特色を活かす。学びの積み重ねによって３年間で卒業でき、多様な教科・科目、個別対応も含んだ発展的学習を可能にする。 ○全体的な効率よりも、一人一人の興味・関心、進路希望による科目選択が優先される水戸南カリキュラム。「自分ペースの学び」を実現し、生徒の個々に合わせた創造的・挑戦的な学びを展開する。 ○生徒主体のカリキュラムにおいて、自立した個人として授業に参加することで、自らが学んでいるという当事者意識を高め、より深く学ぼうとする意識を向上させる。 ○それぞれの教室においては、「間違える、わからない、質問する」が「当たり前」となるような雰囲気が醸成され、学びが安心安全な場であることを約束する。 ○「今はまだ、できないだけ」を教員が意識し、それぞれの学びの世界に導き、刺激し、能力を引き出す。その成果として、生徒がクリエイティブに「何か」を見つけて、自分を変えていく力を認知する。 ○義務教育の９年間では、誰もが苦手と感じる分野を持つ。高校生活スタートで誰もが必要とする基礎・基本の学びを導入し、高校での学びへの移行をスムーズにする。

	○ＩＣＴを有効に活用する。タブレット等を活用することで、自分の意見を伝達が苦手な生徒にとってもハードルが低くなり、自分との対話ができることから人との対話が可能になっていく。
「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	【「これまで」よりも「これから」を重視し、今あるものを良いと感じられ自分と相手の大切さを感じられる人を求める】 ○水戸南高校は一人一人の可能性の開花と、自己調整力の向上を目指している。“できないのではなく、今はまだ、できていないだけ”という想いから、生徒が本来持っている力を呼び起こし、自分の可能性や方向性を思い描けるように導いていく。「種は内に持っている。水が注がれれば花が咲く」という考えのもと、生徒の発達や個性に寄り添う場であることを知ってほしい。 ○良いものを良いと思い、普通にあるものを大切に感じ、あたりまえにあるものの価値を考えられる人、今はまだ未完成でも、予測不能と言われる社会の中で、学ぶ楽しさを見つけようとする人、「自分の大切さ」と「相手の大切さ」をともに考え、自分のことも相手のことも大切に思いやれる人に、本校に入学してもらいたい。 ○教員は、生徒一人一人の持つ能力と向き合って日々懸命に教育活動に取り組んでいる。生徒に学びの場や学校生活において、安心と安全を提供したいと考えている。 ○進学や就職で、さまざまな進路希望を持つ生徒が共存するのが水戸南高校の特色。水戸南高校を点数や偏差値等のモノサシで選ばずに、自分の感性と選択で本校に入学してもらいたい。

4　現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項目	現状分析	課題
進路指導	これまでは進路実現への一歩目を踏み出せない生徒がおり、卒業後もアルバイトの継続や在家庭の生徒が多かった。しかし、昨年度は最後まで就職活動を継続した結果、ほとんどの生徒が進路実現を果たした。進学は、課外授業等、個別指導で実力を養成し、大学４名を含む 14 名が合格した。	・基礎学力・コミュニケーション能力の増進 ・３年間を見通した系統的なキャリア教育の取り組みによる、望ましい勤労観・職業観の育成 ・進路情報の提供、進路行事開催による進路意識の高揚 ・進路実現への具体的・実践的なステップの提示

学習指導	基礎学力が身に付いていない生徒や様々な支援が必要な生徒が多数入学する。また、日本語の理解力が乏しい外国籍の生徒の入学も毎年見られる。しかし、学び直しや、基礎学力向上の取り組み等により、改善が図られ、成長を遂げる生徒も数多い。	・基礎学力定着のためのより有効な手立て ・日本語の理解力が乏しい外国籍生徒の支援 ・本校生徒の実態にあった、学習指導要領に示された課題への対応 ・高い目標を持つ生徒への対応
生徒支援 教育相談 特別支援	精神的な悩みを抱え、中学校までに不登校を経験した生徒が多く入学している（令和７年度入学生の年間 30 日以上の欠席率 49%、100 日以上の欠席率 49%）。入学後は、生徒に寄り添う指導と、生徒自身の向上心から学校生活は、例年着実に改善している現状である。 また、特別な支援や配慮を必要とする生徒の入学も増加傾向にあり、個性豊かで多様性に溢れている。	・生徒支援や教育相談に関する情報共有を生かした指導体制の構築 ・規範意識の高揚（マナーやモラルの向上） ・SC、SSW、SL、各種支援機関等との連携･協力 ・個々の教育的ニーズに応じた指導の充実 ・キャンパスエイド等、各種支援事業の運用 ・組織全体で取り組む体制の継続・発展 ・過度な要求をしてくる保護者へ法的対応をするための学識経験者を含めた組織の構築
特別活動	人間関係などで課題を抱え、上手く集団に馴染めない生徒が増えている一方で、生徒会や部活動に熱心に取り組む生徒もいる。生徒会役員を中心にボランティアへの参加も増えている。	・学校行事や生徒会活動の内容の工夫･充実 ・定通体育大会、生活体験発表会、ボランティア、各種イベント・コンテスト等への積極的な参加の奨励 ・キャリア・パスポートの効果的な活用
働き方改革	超過勤務時間の平均は、前年度と比較して削減した。要因としては教職員一人ひとりの高い業務管理意識が挙げられる。月平均 45 時間超過者はいなかった。。	・教職員一人一人の意識改革 ・ＩＣＴの活用による業務の効率化、スリム化 ・教科内や分掌内における資料等の共有化と活用 ・業務分担の平準化

５　中期的目標

１　よりよい進路選択をするため、自ら情報を収集し、実現に向けて計画的に進める能力の育成を目指す。進路ガイダンスやキャリア・パスポートの積極的な活用を通して、低学年からキャリア教育を推進し、進路意識を高めていく。
２　文化やスポーツの能力を伸長する生徒、働きながら学ぶ生徒にも対応できる、単位制や三課程の特色を生かした普通科教育の場として、中学校卒業の生徒が進路先として選ぶ高校であることを定着させる。
３　交通至便な立地にある静かな学びの場で、小中学校で不登校を経験した生徒などが落ち着いて学習できる環境を提供するとともに、学び直しや中途入学の高校として、一人一人の目標実現に寄与する。

4　髪型や服装への制約やストレスがなく、生徒が自分自身と向き合う場として、学校本来の大切さを感じることができるオーソドックスな高校であることを中学校や社会に周知する。 5　教職員一人一人が働き方改革に取り組み、自らの授業を磨くとともに、日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、生徒に対して効果的な教育活動を行う。 6　自他の生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるとともに、自己が生来もつリソース（資源）やストレングス（強み）に気付き、個性の伸長を目指す姿勢を身に付けさせる。

６　本年度の重点目標（定時制・昼間制）

重点項目	重点目標
・望ましい勤労観・職業観の育成及び主体的な進路選択と進路実現	・キャリアカウンセリングの機会の確保に努め、キャリア教育を推進する。 ・日頃の教育活動全般をとおしたキャリア教育に努め、様々な状況に応じて適切な進路指導を行う。 ・生徒の特性や進路希望に合った資格の積極的な取得を目指す。 ・最後まで諦めず、妥協せず、挑戦する勇気をもち、進路実現を目指すよう継続的に指導する。
・基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の向上 （授業改善への取組）	・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。 ・ＩＣＴの活用等により、生徒の関心・意欲を引き出し、学ぶ喜びやわかる楽しさを実感できる授業を行うとともに、授業の中で自分の考えや意見を表現できるよう工夫・改善を行う。 ・「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けた授業改善に努める。 ・「生徒による授業評価」の観点の一つである授業満足度に係る評定平均値 3.0 以上を目指す。
・生徒支援及び一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実	・一人一人に寄り添った指導によって基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、自己肯定感・自己有用感を高める。 ・学校生活や様々な体験活動をとおして、マナーやモラルの向上とさらなるコミュニケーション能力の育成を目指す。 ・道徳教育を含む教育活動全体をとおして自他共に尊重できる姿勢を養い、いじめのない生活環境を整える。 ・スクールカウンセラーや教育相談員、キャンパスエイド等、外部人材との連携により、生徒一人一人に応じた支援を充実させる。また、学習や生活上の困難に対する個に応じた指導の充実を図るとともに、特別な教育的支援を必要とする生徒の理解に努める。 ・ボランティアや各種イベント、コンテストなどへの積極的な参加を促す。
・特別活動の充実（キャリア・パスポートの活用）	・萬祭・晩秋祭（文化祭）や生徒会行事、クラスマッチ、生活体験発表等の学校行事をとおして主体的に行動できる態度を養う。 ・部活動の活性化を図り、意欲的な取組と定通大会への積極的な参加を目指す。 ・キャリア・パスポートを有効に活用し、主体的に学びに向かう力を育むとともに自己実現につなげていく。

・教職員の資質向上 （働き方改革）	・校内外の積極的な研修参加により、教職員としてのスキルアップに努める。中でも、ＩＣＴ活用やオンラインによる研修等を行うことで、授業改善や業務の効率化を図っていく。 ・在校時間を適切に把握し、一人一人の工夫とチームの協働体制を構築し、業務の効率化に努める。 ・コンプライアンス遵守の気風を構築するための研修を実施する。
・情報発信による学校への理解促進	・ホームページやパンフレット、リーフレット等を通じ、学校行事等の様子を発信すること。 ・中学校等を訪問または公開等を行い、本校のさらなる理解促進を図るとともに、入学者の確保に努める。